

# 社会で活躍する卒業生

A graduate of Shimane University

No. 20

地質調査

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は島建コンサルタント株式会社勤める竹下さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

地質調査のプロが集結  
地域の安心安全を守る  
建設コンサルタント

私たちの安全で快適な生活は、道路や鉄道、港、空港、上下水道、河川、公共構造物など、様々な社会インフラによって支えられています。これらのインフラを維持・提供するため、国や地方自治体、建設会社と協働して、企画・計画・調査・設計・施工管理・維持管理など、建設事業全般にわたる幅広い業務を行うのが建設コンサルタントです。

出雲市に本社を置く島建コンサルタント株式会社は、斜面防災や道路、橋梁などのインフラ整備に携わっています。近年頻発する大規模な災害を背景に、ニーズが高まっている防災事業にも注力し、県知事表彰や県優良業務表彰など多数の受賞実績を誇っています。

同社が展開する「測量・補償」「調査」「設計」「施工」の4部門のうち、調査課に所属しているのが竹下央快さんです。大雨などによる斜面災害発生時や、道路の拡幅・整備事業において、地質・地盤の調査や分析を行うほか、構造物の点検などを担当しています。



Profile ひろ  
**竹下 央快 さん**  
島建コンサルタント株式会社 調査課  
島根県出雲市出身。2021年3月に総合理工学部地球科学科を卒業し、同年4月に島建コンサルタント株式会社に入社する。調査課に所属し、地質調査業務を担当。主にボーリング調査により地盤から採取した試料の観察・分析し、報告書のとりまとめを行う。

「例えば、集中豪雨によって地滑りが起こると、自治体からの依頼で、地盤に細い孔をあけるボーリング調査を複数箇所で行います。私は、ボーリングで採取した土や岩盤試料の分析を担当しています。試料を観察すると、該当エリアの地層構造はもちろん、地層のどの部分で地滑りが起こっているかが分かります。分析結果を調査報告書としてまとめ、自治体に提出します」。提出書類に間違いがないよう、些細なことでも必ず周囲に確認をとりながら進めるように心がけているそうです。

ともあります。道路整備事業の環境でトンネルを掘削する場合、掘削によって水脈が変わる場合があります。地下水に影響が出ていないかを確認するため、近隣エリアの民家を訪れ、井戸を調査させてもらうこともあるそうです。「突然知らない人が来て井戸を見せてくださいと言われると、怪しい業者なのではと思われる方もいらっしゃるかもしれません。個人のお宅を訪問する際には、自分たちの身元や訪問理由、調査の内容を丁寧に説明して、納得いただきたいうえで協力をお願いするように気をつけています」。

様々な業務を経験しつつ、今年で3年目になる竹下さん。「まだまだ分からないことの方が多くて日々覚えることだらけなので、仕事のやりがいはいっぱい！と胸を張って言えるほどの余裕はありません(笑)。でも、興味のあることを仕事にできるのはとても楽しいですね」。

資格取得を目指しつつ  
じっくりと実力をつける  
信頼される丁寧な仕事を

「建設コンサルタントという仕事を知ったのは大学に入ってから」



ボーリングで採取した試料を観察・分析する。



調査報告書を作成する竹下さん。

と振り返る竹下さん。大学時代は総合理工学部地球科学科で地球物質資源科学分野の研究室に所属していました。毎年、同学科の卒業生で建設コンサルの企業に就職する人がいたため、この仕事の存在を知ったそうです。「『島建』という会社について知ったのは、研究室に同社の営業の方が訪問されたことがきっかけです。その時に仕事の内容を詳しく聞かせてもらって、興味が高まりました」。地元での就職を考えていた竹下さんは、その後同社のインターンシップにも参加し、この仕事への理解を深めました。

「大学で専門的に研究していたことと今の仕事とは分野が違いますが、毎日学ぶことだらけと話す竹下さんが目指すのは、技術士の資格取得です。「技術士の資格は実務経験年数が必要なので、まだ時間はかかりますが、早く資格を取って、仕事を任せてもらえるようになりたいです。今は(主担当の)先輩方と一緒に、複数の工程の中の一部の作業を担当しているのですが、いつか一つの仕事で1から10までを主担当としてやりきってみたいですね」。資格取得を目指すと並行して、それに見合った実力をつけていきたいと先を見据えます」。

「地域の方に『島建さんなら安心して任せられるよ』と言っていただけのように、地域を支える同社の一員として、これまで先輩方が築いてきた地域との信頼関係を崩さず、丁寧に仕事をしていきたいです」。

読者の声  
Voice

広報しまだい vol.56に寄せられた声をお届けします。

学生生活の日常の様子などが  
伝わる記事があると、入学希望者にも  
関心を持ってもらえると思います。

(長野県岡谷市・30代女性)

大学が今どんな活動をしているのか  
知ることができ、我が子にも  
勧めることができる大学だと思いました。

(島根県大田市・40代女性)

広く市民大学・県民大学を開催して、  
紙面だけでなく研究内容を  
還元・アピールしてください。

(島根県出雲市・60代男性)

材料エネルギー学部を設置  
おめでとございます。  
大きく前進してほしいものです。

(奈良県奈良市・70代男性)

首相が大学に視察に来られたとの  
記事が印象に残りました。  
大学のアピールになったと思います。

(広島県世羅郡・60代男性)